midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

OCtober 2011 No.315-316

１０月号の１枚：枝打ちを行う中学生

［巻頭言］ 新しい時代を開くか・・・NPO（特定非営利法人）活動

森林NPO活動から、新しい森林再生の時代が開けるか

ＮＰＯ法（特定非営利活動法）が成立したのは、1998年12月1日である。成立の主な原因は、社会システムが複雑になって、平等・公平が原則の公共を受け持つ行政が、手の届かない部分を市民活動に期待するようになったからだ。

NPO法に該当する活動は、医療・教育・福祉・災害・環境・人権など17項目が定められているが、2010年1月時点で、39,214もの団体が登録されている。登記上の数では素晴らしい展開と思うが、中身はどうだろうか。NPOを語った不適切な団体が時折、新聞等で報道される。当会にも、怪しげな話が持ち込まれることがある。真に、公共性・公益性を実践している団体を見分けるには、それなりの洞察力・分析力が試されるようだ。また、解散数や休眠活動数は、抑えられているだろうか、まだ、実態の掌握に至っていないようだ。

森林ボランテイアやNPOに限って言えば、活動は毎年・300団体ほどが増えて2009年には2,677団体となっている。国際森林年の今年、わが国でも、全国各地で国ぐるみの様々の森林広報・活動が開催されている。おそらく来年は、3,000団体を突破しているだろう。3000団体の森林NPO活動から、新しい森林再生の時代が開けるのだろうか。

今年、内閣府が各県を通じて、主にNPOを対象に行政・企業等が支えあう「新しい公共の場づくりモデル事業」を募集している。申請書を書き始めたが夫々、多様な役割と個性の違う組織を一本にまとめ、正常に活動できる組織体を作るのは至難のことだと感じる。本当の意味での「新しい時代を開くNPO活動」に至るまでには、かなりの時間と壁を越えなければならないだろう。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2011.10

10月 2日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

10月16日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

9月4日（第一日曜日）

この日の活動は台風12号が近付く中での活動日だったので天気が不安でしたが、朝は雨が降っていなかったため予定通り活動を行うことにしました。
小原の山に着いてみると、雨がたくさん降ったせいか山に溜めきれなくなった水が流れて来ていて道が小川のようになっていました。ひどい所では側溝が詰まっていたせいで、水が溢れ出し、噴水のようになっていました。そこで、まだ雨が降ってくる可能性もあり、山の奥での作業は危険ということで小原の山の入り口付近の道を掃除してきれいにすることにしました。噴水のようになっていた場所では、側溝のふたをなんとか外し、詰まっていた枝や土をどかしました。掃除した後は水の流れも良くなり、きれいな水が流れるようになりました。上のほうでは、斜面の窪みに沿って下まで水が流れてしまうようになっていたので、水の流れに沿うように新たな窪みを作り、道沿いではなく沢側に水が流れるようにしました。他にも、また詰まったりしないように落ち葉や枝を片づけて水の逃げ道が出来るようにしました。
山には水を溜める力がありますが、台風ように雨がたくさん降った時には水が溢れて今回のように思わぬところに川ができてしまったりします。普段から側溝をきれいにしたり、道路の落ち葉を片づけたりしておくことで水の流れを分散することができ、道が川になってしまうことも防ぐことができたと思います。でも、今まで気がつかなかったように雨が降ってみないと、どこから水が湧き出ていて、どこに水が集まりやすいのかわからなかったりします。雨が降った後だったからこそ、いつもとは違った小原の山の一面に気づけた気がしました。

午後はいつもより早めに切り上げ、小原宿本陣へ移動して、本陣の中をひと回りしながら建物の中や置いてある物の説明を聞いたりして小原宿の歴史について学びました。前々から本陣の中がどうなっているのか気になっていましたが、中々じっくりと見る機会がなかったので見ることができて良かったです。

その後は小原の山主の一人である小林さん宅で緑のダムの方たちとともにバーベキューを御馳走になりました。野菜は小林さんが丹精込めて作ったもので、とてもおいしかったです。山主さんや緑のダムの方たちとこうしてお食事をする機会は少ないので、良い機会となりました。ありがとうございました。

關根　穂美（Forest Nova☆）

[定例活動]若柳嵐山の森

9月18日（第三日曜日）

「 残暑猛烈！　若さ溢れる森！」

湿度も高いこの日、猛烈な陽光が肌を刺すように降り注ぐ。外来種だからと植え付けに物議をかもした百日紅（サルスベリ）の強烈な紅が咲き誇っている。森の中では時折，ヒヤリとした冷気が吹き抜ける。森林の機能にある「快適環境・気温調節機能」を実感！
何とまぁ、この暑さの中、望星の森参加者：杉並区立高井戸中学地球環境部23名＋望星高校15名、学生連合フォレストノバ8名、若者の合計46名。東急コミニュテイなど一般参加29名、総計75名（中・高・大の若者参加比率61％）

・中学生の森は、「なみすけの森づくりプロジェクト」と名付られている。ン?、なぜ、なみすけ？。東京・杉並区のマスコットキャラクターが“なみすけ”というからだそうだ。未だ、なみすけを見たことないから今度、“なみすけ”を持っといで。
初参加生徒が多いので、斉藤・緑のダム体験学校長による「森のオハナシ：臨時開校」は、分かりやすくて面白くて、夢中で聞き入る。午後の作業は、なみすけの森プロジェクトでの枝打ち指導。午後からは望星の森の草刈りを行った。
・望星高校生の森の今日の作業計画は、文科省支援によるＳＰＰ（Science Partnership Project）による間伐効果の調査。胸高直径、毎木調査、相対照度等の計測などを行った。日大の学生も指導に入る。

・学生連合は、材の利・活用の検討。４カ月葉枯らし＋３カ月・２ｍ玉伐り乾燥した製材実習。
・森林整備班：夏草の茂る森の中の刈り払い。作業後のスッキリした森を冷風が吹き抜ける。
・森林整備Ａ地区に取り組むベテラン・生命の森宣言・東京班：広さ約１haの森のほぼ２／３を整備して余裕を見せながら、黙々と林床整理に取り組む。
・お花畑ガーデン班：吉池さんが黙々と草取りしていた。整理した花畑に持参の花桃苗を植えていた。
　ベテラン４人が来年度・森林整備計画のために町道・東海遊歩道入口から上って嵐山中腹から横道経路に入り森林整備A地区に下った。森林図を辿って踏査したが、図面と実踏査の地形・距離感の違いには驚いた。
　お昼の氷で冷やした少しピリ辛の味噌汁は、大人気だった。梅干しも良かった。シュワーっと塩サイダー飴を学生が喜んだ。作業を終わって・・・、冷たい麦茶に行列ができた。

＊終礼：猛暑と蜂にやられそうになったが無事、今日も満足・納得の活動・・・・・・森に感謝！。

伊藤　小夜子
（本会、会員）

[報告１]
湘南の森活動報告

　９月９日は日差しが強く暑かったのですが、夏の蒸し暑さは無く秋を感じさせました。
　湘南平に集まったところで物置の鍵を持参していないことに気づき、岩澤が自宅まで戻るというハプニングがあり活動の開始が遅れました。午前中の活動は、辺見と臼井がヤブラン平で前回倒した枯れかかった老大木の切断をチェーンソーで行いました。その他のものは浅間山の北斜面で笹、夏草、覆い尽くした蔓などを切って光を地面に届かせるよう力を注ぎました。至る所でヤブランが咲き乱れていますがそろそろ見納めです。初夏の頃のススキやヤエムグラ、イヌムギのような雑草の繁茂からは想像も出来ませんが、ヤブラン平もその名の通りきれいに咲いてそれは見事ですが去年よりも面積が少なくなっているようで、植生は年々変わっている印象を受けます。
　昼食は浅間神社の前で取りましたが、沢山の蝶が舞っていました。蝶の観察会の成果でモンキアゲハは分かるのですが、目の前を素早く飛び去る蝶を「クロアゲハかなー。」「背中が青い玉虫色だったようだからカラスアゲハかなー。ミヤマカラスアゲハならもっときれいだったよなー。」と蝶談義。瞬時に見分けるのは経験不足の素人にはやはり難しい。
　午後はヤブラン平で半分枯れた高木の桜を臼井と辺見がチェーンソーで切り倒した後細分化し、皆で北側斜面の土止め用に斜面に平行になるように廃棄しました。
　今日はみっちりとした活動で充実した疲労感を感じ、全員が口数も少なく重い足取りで引き上げました。

佐藤　憲隆（湘南の森）

上：望星の森で作業する中学生
下左：製材するフォレストノバ
下右：嵐山のヒガンバナ

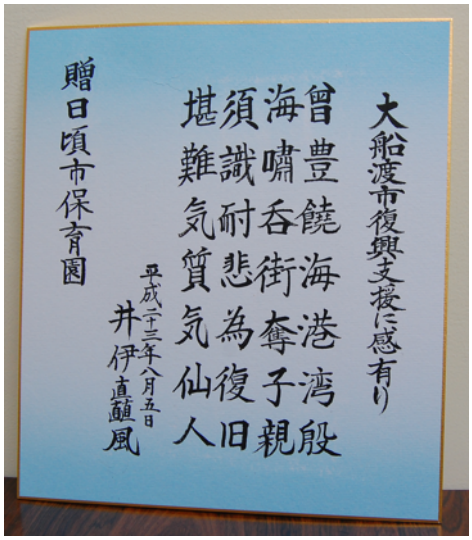
[報告２]森の積み木プロジェクトより

去る8月2日から5日まで森の積木プロジェクトに参加した。私達が訪れた大船渡市の現状は、洪水に襲われた地区とそうでない地区とでは土地の高さの違いだけでその被害の程度が豁然と分かれており、自然の摂理の無慈悲さを感じさせるもので有った。洪水に襲われた地区では、全てのものが攫われ壊されていた。山と積まれた瓦礫が見渡す限り「整然」と置かれ、その中を無人のアスファルト道路が遥か彼方まで続き廃墟の様を呈していた。

然しながら私達がお世話になった日頃市保育園の方々を含め今回の活動中お会いした全ての方々からは、嘆きや愚痴の一言すら洩れる事が無かった。それどころか、保育所に寄宿している私達に、お握り・稲荷寿司・かやくご飯等を差し入れして頂く始末で有った。

こんな土地の人達の素晴らしい気質に触れて、その感謝の気持ちを伝えたく拙い漢詩を作ってみました。

井伊　直允（緑のダム、会員）



大船渡市復興支援に感有り

曾つて豊饒の海港湾殷んなり
海嘯街を呑み子親を奪う
須く識るべし悲しみに耐え復旧を為すは
難に堪える気仙人の気質なるらん

（詩　意）

大船渡はかつて豊漁の海を抱え港が賑わっていた
その街を津波が襲い、親子など人々の命を奪った
その悲しみに耐えながらも復旧に当っているのは
苦難に堪えていく気仙の人々の気質で有ることを
世人は是非とも知るべきである

平成二十三年八月五日
緑のダム　井伊直允

また、この詩吟は東海大学付属望星高等学校技術室のご協力を得て、収録し、被災地へ送られることになりました。この場をお借りして同校技術室田中さまにお礼申し上げます。

[報告３]森林ボランティア活動に参加して

私は今回はじめて森林ボランティアに参加しました。参加のきっかけは依然ボランティアに参加した友人に「森林浴がとても気持ちいいからおいでよ」と誘われたからです。ボランティア当日、いきなりヘビと出会い、森には毛虫や蜂などがいて、はじめは「来なければよかった」と後悔しました。

しかし、午後に行った枝うちで気持ちが一気に逆転しました。はしごに登って、または自分の３倍もの長さがあるのこぎりを使って枝打ちをすることが楽しくて、疲れなど忘れてしまいました。そのまま、土砂崩れの起こった場所へ移動して作業を続けました。

午後の作業が終わるとくつは泥だらけで体はへとへとだけど、やり切ったような気持ちがありました。今回このボランティアに参加して、自然と人間とのつながりが少しわかったような気がしました。自然を守るためには、人間が動かねばならない。そしてそれは簡単なことではない。ボランティアに参加して、その厳しさを体感したからこそ、気づくことができたのだと思います。

次回もまた森林のボランティアに参加して少しでも自然の役に立つことができたらいいです。その時は友人も誘い、できるだけたくさんの人に自然を守ることを考えてほしいと思うようになりました。（中学３年・女子）

[報告４] フォレストノバ活動報告

9月に入り、ForestNova☆は12，13日に嵐山周辺で合宿を行いました。夏休み中なのでなかなか全員が集まる機会は少なかったのですが、今回の合宿はほとんどのメンバーが参加することができました。

一日目は嵐山近くの弁天島に行きました。青空の下でバーベキューをした後、ForestNova☆の理念や活動方針について先輩方からお話をしていただきました。私たち１年はまだまだForestNova☆について知らないことが多かったので、これから活動していくうえで大切なことを学びました。

夜は相模湖駅前の定食屋、かどやさんで食事をとったあと、そのまま２階の一室を貸していただきました。そこで１、２年生が中心となって疑似ミーティングを行いました。普段からミーティングや議題をどのように進めたらより良い話し合いができるのかと悩んでいる人が多かったため、３、４年生には外から見ていただき、アドバイスをもらいました。疑似ミーティングはいつもの議題よりも軽い、架空のテーマで行いました。そのためか、発言が多く、活発なものになりました。ミーティングが終わった後、これが架空のテーマだったことが残念に思えるほどでした。

２日目は早朝から、起きられた人だけで鳥と昆虫採集をしに嵐山へ向かいました。コクワガタが一匹だけ見られたようです。

嵐山で朝食を食べた後、10月1日に行う環境教育の下見と間伐材を利用して箸を作る2つのグループに分かれました。下見では企画の中で使う場所で危ないところはないか確認したり、使えそうなものを探したりしました。箸づくりでは皆、時間が経つのを忘れて夢中で作っていました。

午後は相模湖交流センターにて、この合宿の目的でもある「団体・個人として抱える課題、疑問、不安を解決する」ために、話したいテーマごとに分かれて話し合いを行いました。これからのForestNova☆の活動をよくするための課題が見えたり、新しい企画のアイディアが出たりしました。

この合宿でメンバーそれぞれが新たな目標を考えました。今後の活動に精一杯取り組んでいけるように頑張りたいと思います。これからもよろしくお願いします。

松村　知香（Forest Nova☆）

[報告５] 積み木で作る東京駅プロジェクト報告

私が勤務する中学校の地球環境部の活動の一環で本会の間伐材を活用した森の積み木を用いて「東京駅」を作るプロジェクトを進めています。現在昭和初期の姿に復元工事が進んでいる東京駅の試作版（幅約8m、高さ約1m）を完成させました。設計図もなく、当時の写真を頼りに生徒達たちは想像力とチームワークを頼りにここまで完成させました。

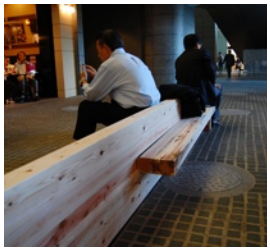
宮村　連理（本会、理事）

[事務局からの
お知らせ、お願い]

「UIA2011 東京大会　チェアシティ展」開催、写真でご紹介します。

　本会、相模湖商工会と民間企業が協働して組織する「森林再生事業促進実行委員会」が共催する「UIA2011 東京大会　チェアシティ展」を開催しています。今回は会場の様子を写真でご紹介します。
　イベントの詳細報告は来月号で行います。

会場では多くのビジネスマンが木のぬくもりのあるベンチでリラックスしている姿が印象的でした



JFIKと共催でフォレストキッズスクールを開催

　森林保全活動を通して、子供たち向けの森林体験を続けています。10月8日(土)に全国森林インストラクター神奈川会と共催で2011フォレストキッズ・スクール『きこりになろう!』のテーマで開催します。
　きこりになって秋の森でクイズや林業体験などで遊びませんか。きのこ汁もあります。詳細は本会ウェブページをご覧ください。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版